

2023（令和5）年さけます来遊状況（第3報：11/30現在）

4 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所 さけます部門 資源増殖部

- 全国の年齢別来遊数では、4年魚（2019年級）は前年、平年ともに下回り、5年魚（2018年級）は前年を上回っているが、平年の27%
- 北海道太平洋側では5年魚が平年の9%と1994（平成6）年以降で2番目に少なく、北海道日本海側では5年魚が平年の55%
- 本州太平洋側では3年魚（2020年級）、4年魚、5年魚が1994年以降で最も少なく、本州日本海側では4年魚が1994年以降で最も少ない
- サケの平均重量は北海道で3.03kg、本州で2.91kgとなり、北海道は1994年以降で2番目に小さい

*1：平年とは、1994（平成6） - 2022（令和4）年の平均値

・サケの年齢組成 （全国）

全国の河川に回帰したサケの年齢査定の途中経過をもとに、11月30日現在における年齢別来遊数を推定したところ、年齢組成では、4年魚（2019年級）が全体の71%を占めて最も多く、次いで5年魚（2018年級）が20%を占めました。前年同期との比較では、4年魚は70%と前年を下回っていますが、5年魚は190%と前年を上回っています（図1）。平年同期との比較では、4年魚は59%と下回っており、1994（平成6）年以降で6番目に少ない状況です。5年魚は27%と下回っており、1994（平成6）年以降で4番目に少ない状況です。

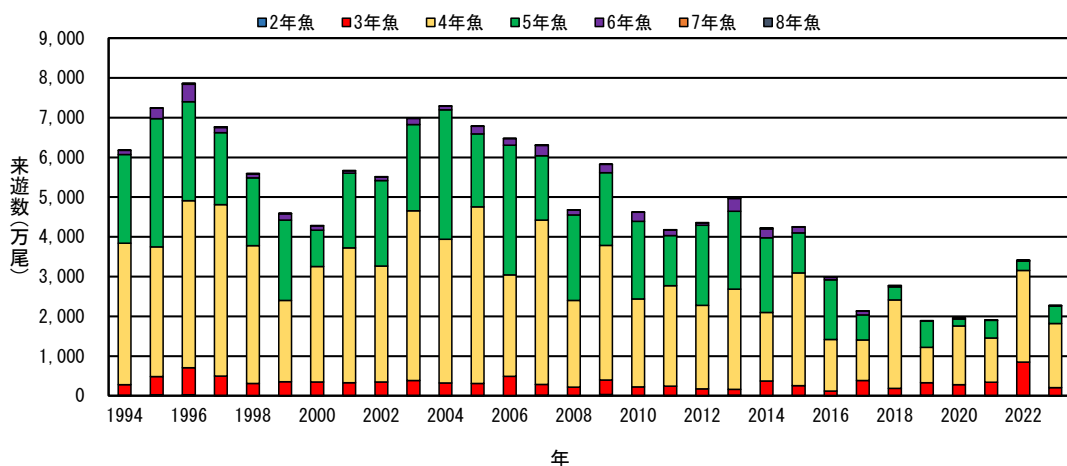


図1. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数（全国）.

(北海道太平洋)

北海道太平洋側（根室海区～えりも以西海区）では、4年魚（2019年級）が全体の71%を占めて最も多く、次いで3年魚（2020年級）と5年魚（2018年級）がともに14%を占めました。4年魚の来遊数は前年同期の66%、平年同期の27%、3年魚は前年同期の40%、平年同期の59%、5年魚は前年同期の145%、平年同期の9%となっており、5年魚は1994（平成6）年以降で2番目に少ない値となっています（図2）。

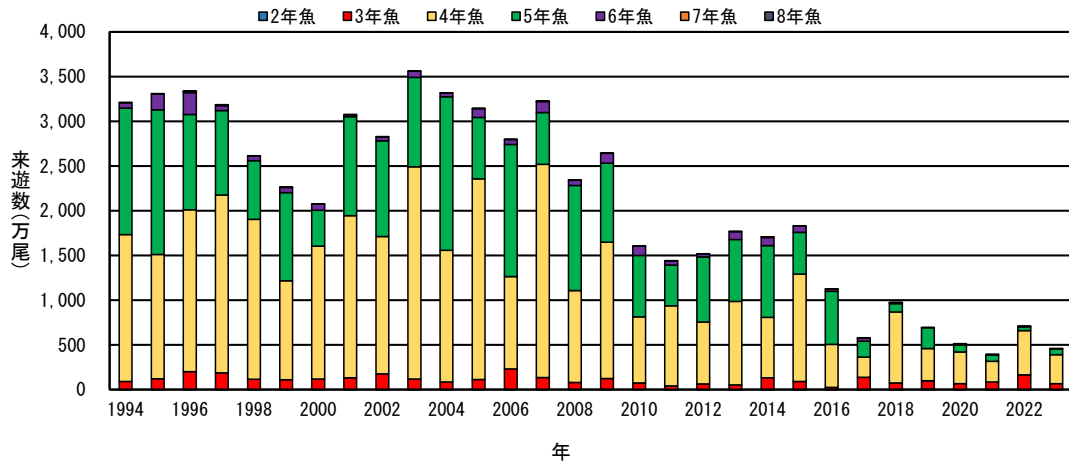


図2. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2019年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2018年級の平均の38%の水準となっています。また、今年の5年魚である2018年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2017年級の平均の32%の水準となっています（図3）。

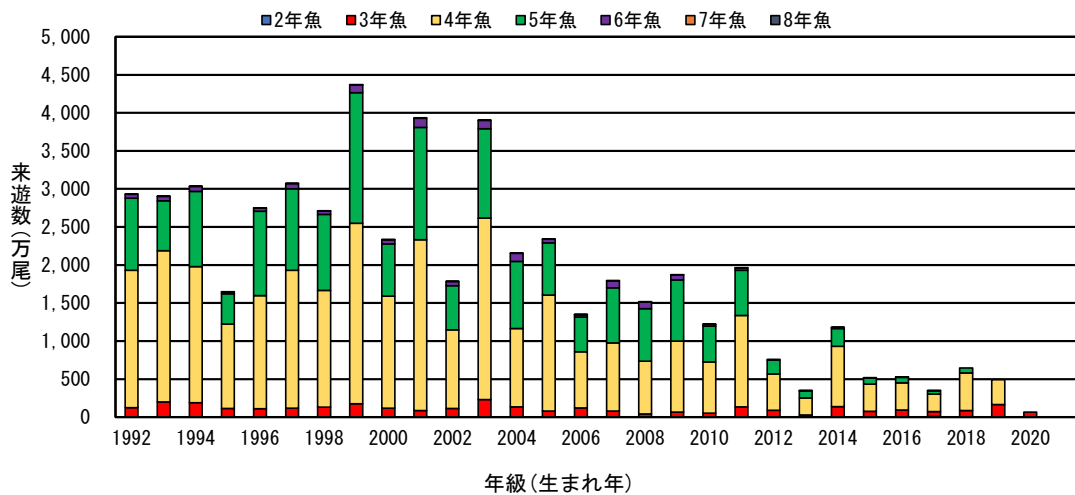


図3. 11月30日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道太平洋）.

(北海道日本海)

北海道日本海側（オホーツク海区および日本海区）では、4年魚（2019年級）が全体の71%を占めて最も多く、次いで5年魚（2018年級）が21%を占めました。4年魚の来遊数は前年同期の72%、平年同期の120%、5年魚は前年同期の202%、平年同期の55%となっており、5年魚は1994（平成6）年以降で8番目に少ない値となっています（図4）。

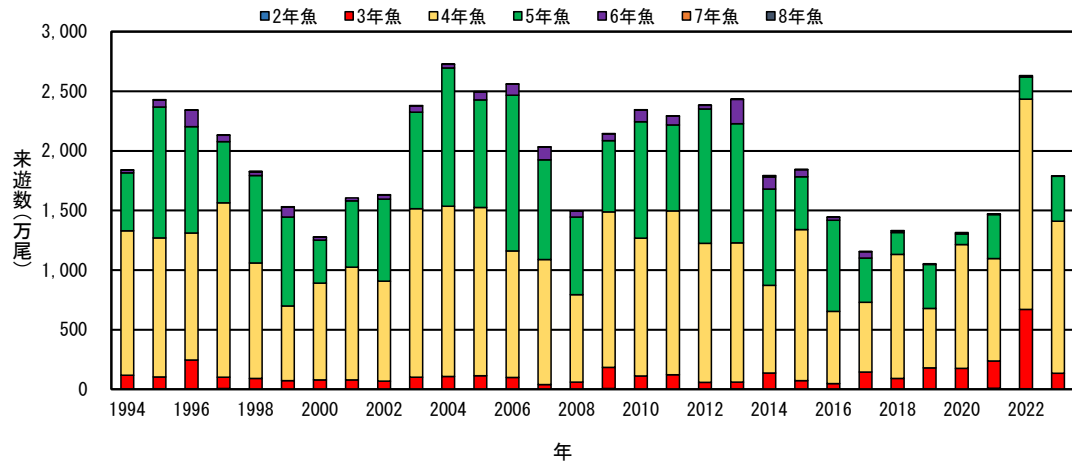


図4. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2019年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2018年級の平均の168%の水準となっています。また、今年の5年魚である2018年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2017年級の平均の132%の水準となっています（図5）。

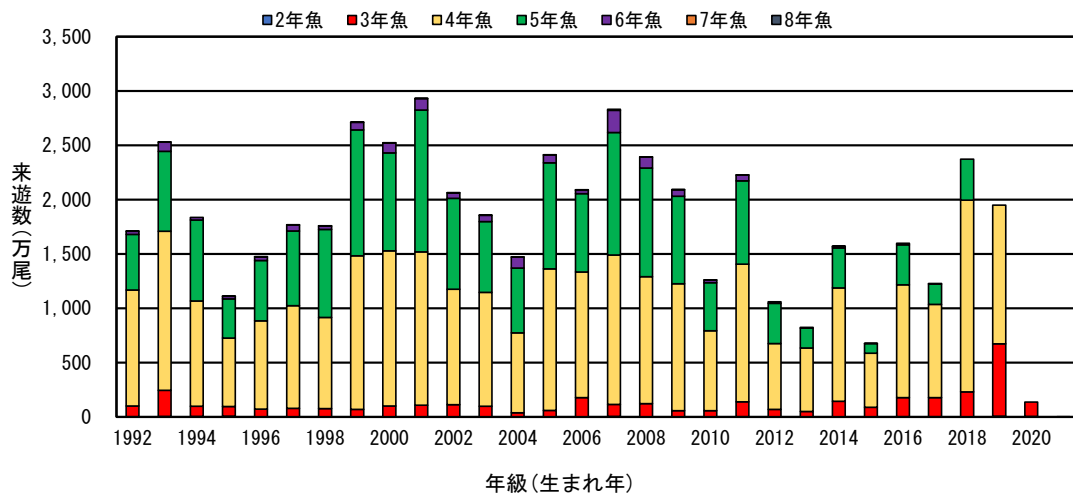


図5. 11月30日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道日本海）.

(本州太平洋)

本州太平洋側では、3年魚（2020年級）が全体の39%を占めて最も多く、次いで4年魚（2019年級）が38%、5年魚（2018年級）が23%を占めました。3年魚の来遊数は前年同期の66%、平年同期の3%、4年魚は前年同期の10%、平年同期の0.5%、5年魚は前年同期の83%、平年同期の1%となっており、3年魚、4年魚、5年魚とも1994（平成6）年以降で最も少ない値となっています（図6aおよび図6b）。

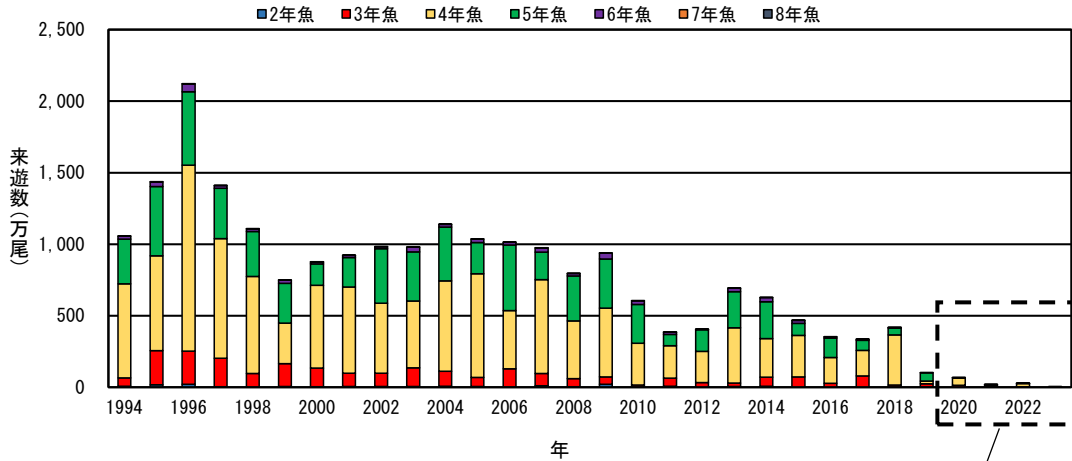


図6a. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数（本州太平洋）.

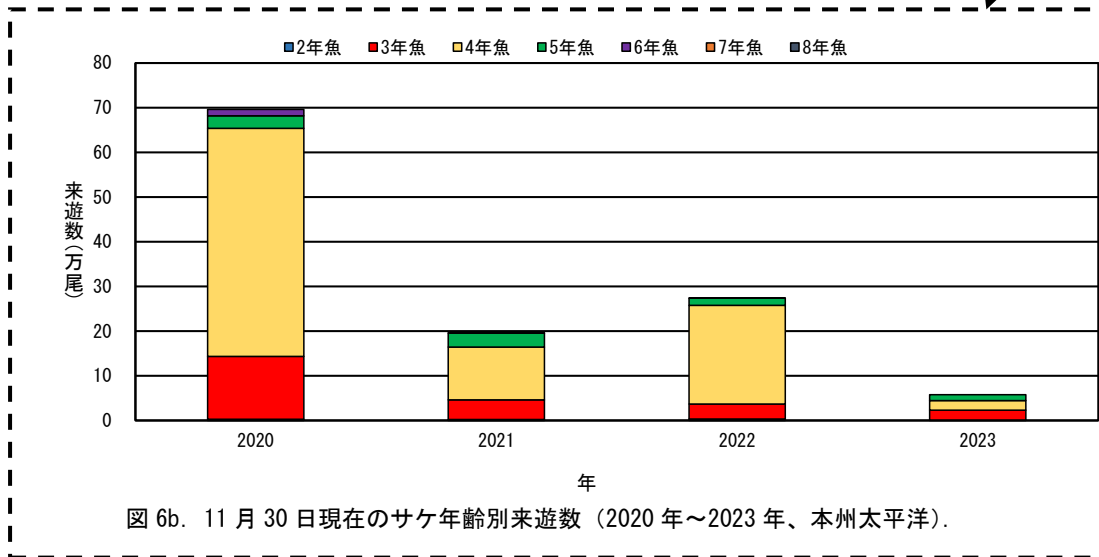


図6b. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数（2020年～2023年、本州太平洋）.

本州太平洋側の年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2019年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2018年級の平均の1%の水準となっています。また、今年の5年魚である2018年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2017年級の平均の4%の水準となっています（図7aおよび図7b）。

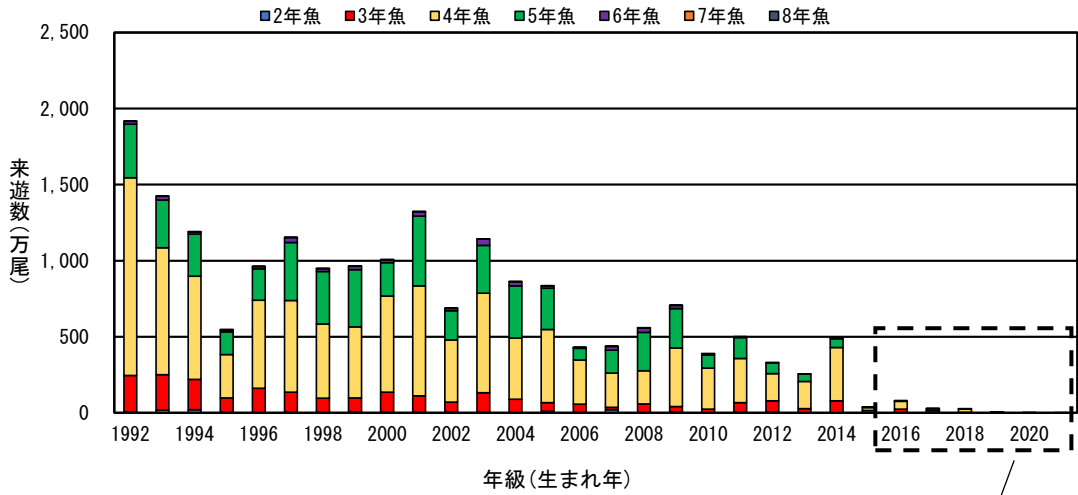


図 7a. 11 月 30 日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（本州太平洋）.

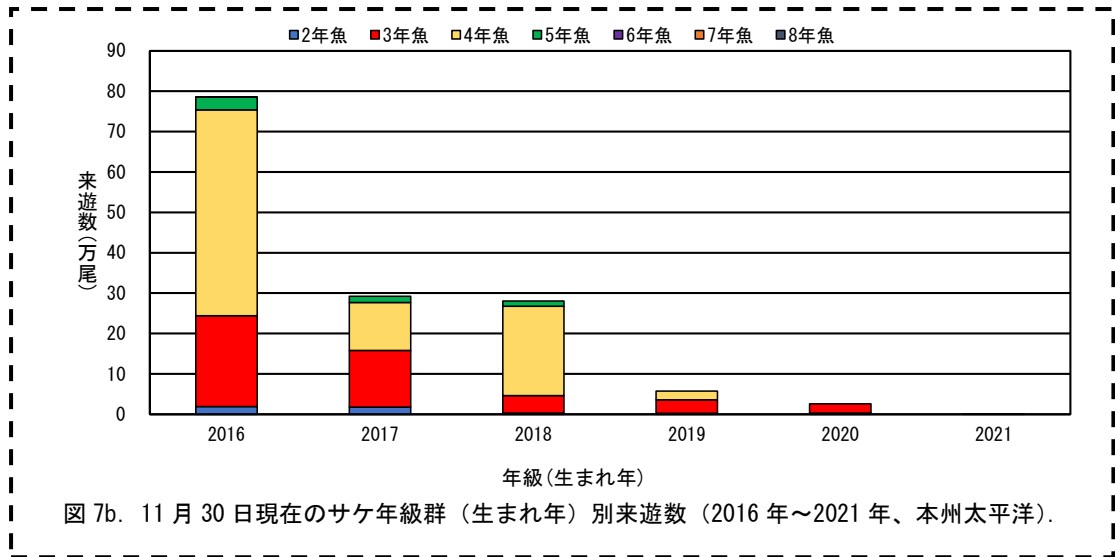


図 7b. 11 月 30 日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（2016 年～2021 年、本州太平洋）.

(本州日本海)

本州日本海側では、4年魚（2019年級）が全体の45%を占めて最も多く、次いで3年魚（2020年級）が43%、5年魚（2018年級）が12%を占めました。4年魚の来遊数は前年同期の24%、平年同期の16%、3年魚は前年同期の47%、平年同期の40%、5年魚は前年同期の247%、平年同期の17%となっており、4年魚は1994（平成6）年以降で最も少ない値となっています（図8）。

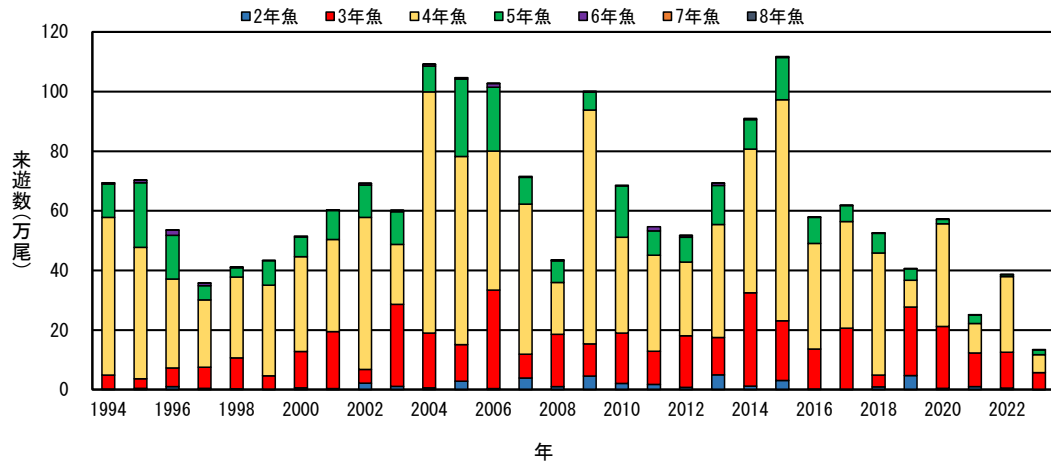


図8. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数（本州日本海）.

本州日本海側の年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2019年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2018年級の平均の35%の水準となっています。また、今年の5年魚である2018年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2017年級の平均の61%の水準となっています（図9）。

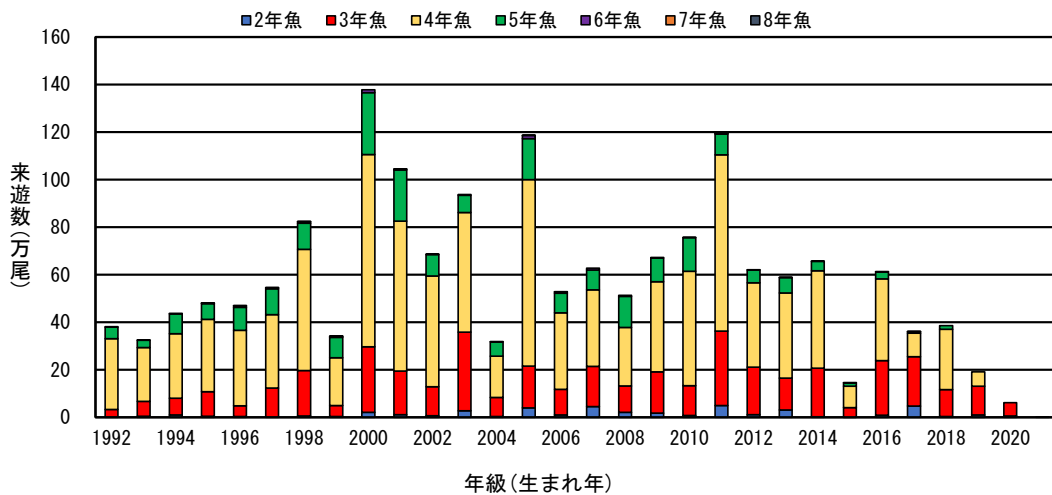


図9. 11月30日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（本州日本海）.

・サケの体サイズ

(北海道)

北海道における 11 月 30 日現在のサケ 1 尾当たりの平均重量（漁獲数と漁獲重量から算出）は 3.02kg であり、前年同期の平均重量 2.83kg を上回りましたが、1994（平成 6）年以降で 2 番目に小さい値となっています（図 10）。

また、北海道の主要河川に 11 月 30 日現在までに回帰したサケ 4 年魚の平均尾叉長は 65.5cm であり、前年同期の平均尾叉長 64.8cm よりも大きく、1994（平成 6）年以降で 10 番目に小さい値となっています（図 11）。

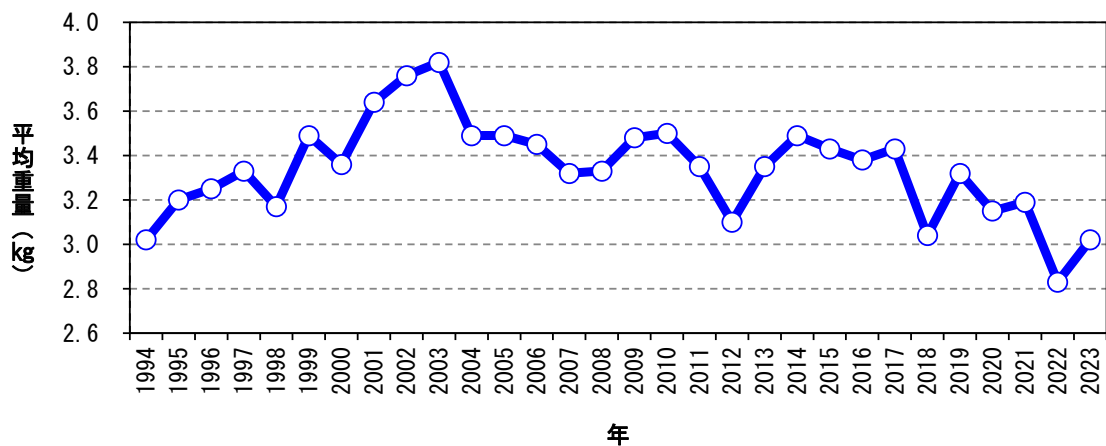


図 10. 11 月 30 日現在のサケ平均重量（北海道）。

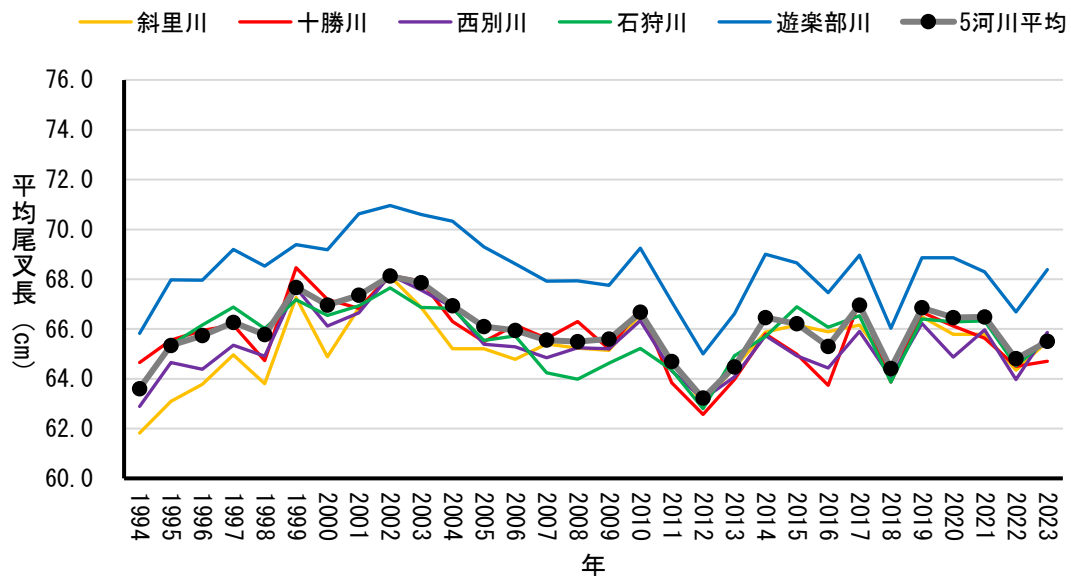


図 11. 11 月 30 日現在の北海道主要河川におけるサケ 4 年魚の平均尾叉長。

(本州)

本州における 11 月 30 日現在のサケ 1 尾当たりの平均重量（漁獲数と漁獲重量から算出）は 2.91kg であり、前年同期の平均重量 2.71kg を上回りましたが、1994（平成 6）年以降で 6 番目に小さい値となっています（図 12）。

また、本州太平洋側の津軽石川、本州日本海側の月光川（牛渡川）に 11 月 30 日現在までに回帰したサケ 4 年魚の平均尾叉長はそれぞれ 67.3cm、68.9cm であり、前年同期の平均尾叉長の 65.8cm、68.1cm よりも大きくなっています（図 13）。

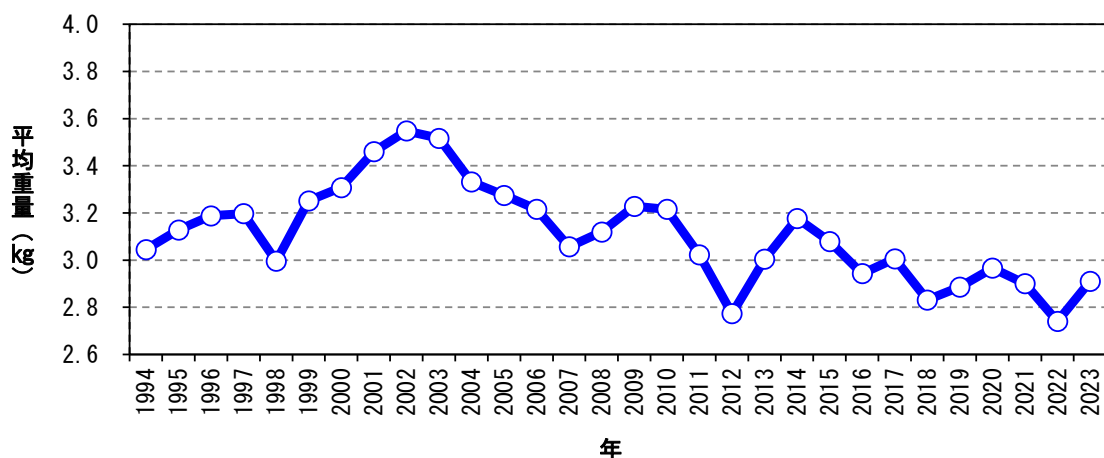


図 12. 11 月 30 日現在のサケ平均重量（本州）。

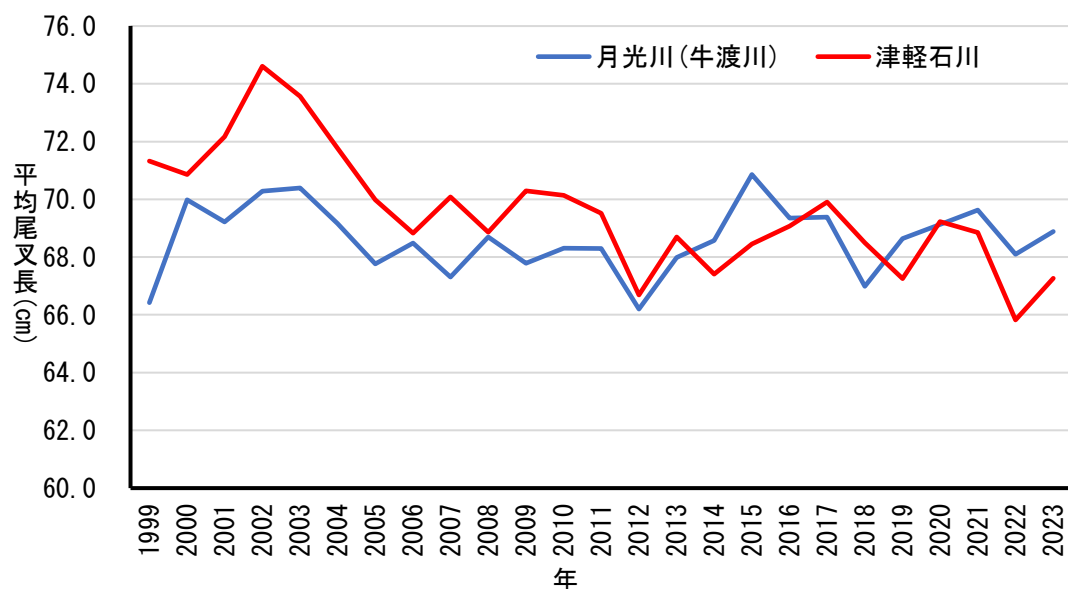


図 13. 11 月 30 日現在の本州 2 河川におけるサケ 4 年魚の平均尾叉長。